

# I 公共用水域

## 4 河川水質の環境ホルモン調査結果

(1) 調査概要	112
(2) 令和5年度結果の概要	112
(3) 経年変化	113
図 河川における環境ホルモン調査地点	114



#### 4 河川水質の環境ホルモン調査結果

##### (1) 調査概要

本市では、市内の河川における環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）による汚染状況を把握するため、平成10年度から毎年度調査を行っています。

令和2年度から、7河川11地点について2年間で調査を実施するローリング方式に変更し、令和5年度はノニルフェノール等の4物質について、5河川5地点で水質調査を実施しました。

なお、調査項目及び各物質の主な使用用途は下表のとおりです。

	調査項目	用途
1	ノニルフェノール	界面活性剤の原料
2	4-t-オクチルフェノール	界面活性剤の原料
3	ビスフェノールA	樹脂の原料
4	o, p'-DDT	殺虫剤

##### (2) 令和5年度結果の概要

ビスフェノールAが1地点で検出（0.02 μg/L）されましたが、その他の項目は検出されませんでした。

(単位：μg/L)

調査項目	調査地点	天神川	有栖川	山科川	西高瀬川	小畑川
		西京極橋	梅津新橋	新六地藏橋	天神橋	京都市長岡京市境界点
ノニルフェノール		<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06
4-t-オクチルフェノール		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ビスフェノールA		<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01
o, p'-DDT		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

##### <参考>

##### 環境基準値及び要監視項目の指針値

単位：μg/L

項目	類型	生物A	生物特A	生物B	生物特B
ノニルフェノール	環境基準値 (河川)	1	0.6	2	2
4-t-オクチルフェノール	指針値 (淡水域)	1	0.7	4	3

##### 内分泌かく乱作用試験の結果から予測無影響濃度※

単位：μg/L

項目	予測無影響濃度
ビスフェノールA	24.7 又は 47 (国土交通省は 24.7 を採用)
o, p'-DDT	0.0145

※ 環境中の生物に対して有害な影響を及ぼさないと予想される濃度

(3) 経年変化

調査項目 \ 年度	R3			R4			R5		
	調査地点数	検出地点数	検出濃度 (μg/L)	調査地点数	検出地点数	検出濃度 (μg/L)	調査地点数	検出地点数	検出濃度 (μg/L)
ノニルフェノール	5	0	<0.06	6	0	<0.06	5	0	<0.06
4- <i>t</i> -オクチルフェノール	5	0	<0.01	6	0	<0.01	5	0	<0.01
ビスフェノールA	5	0	<0.01	6	1	0.02	5	1	0.02
<i>o,p'</i> -DDT	5	0	<0.01	6	0	<0.01	5	0	<0.01

# 河川水質の環境ホルモン調査地点

